

公益財団法人熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村データベース(球磨郡)

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
1	球磨郡	錦町西黒辺田野	黒辺田野臼太鼓踊り		錦町無形民俗文化財 昭和55年10月22日	不定期		町のふるさと祭りに3年毎、その他イベント、落成式、神社等で踊られている。【2001】	【伝統芸能】 風流芸		錦町役場 0966-38-1111 〒868-0302 熊本県球磨郡 錦町大字一武1587	
2	球磨郡	錦町西下須	下須建築踊り		錦町無形民俗文化財 昭和55年10月22日	不定期		ふるさと祭り、文化祭、運動会などで披露している。【2001】			錦町役場 0966-38-1111 〒868-0302 熊本県球磨郡 錦町大字一武1587	
3	球磨郡	錦町一武平岩	平岩太鼓踊り		錦町無形民俗文化財 昭和55年10月22日	不定期		お堂さん、神社の落成式、農作物の豊作を祈り雨乞いを祈願して行われた。【2001】	【伝統芸能】 風流芸		錦町役場 0966-38-1111 〒868-0302 熊本県球磨郡 錦町大字一武1587	
4	球磨郡	錦町一武浜川	浜川太鼓踊り		錦町無形民俗文化財 昭和55年10月22日	11月		「喜びの踊り」で「お祝いの歌」である。ふるさと祭りなどで踊り続けている。【2001】	【伝統芸能】 風流芸		錦町役場 0966-38-1111 〒868-0302 熊本県球磨郡 錦町大字一武1587	
5	球磨郡	錦町一武東方	東方棒踊り		錦町無形民俗文化財 昭和55年10月22日	不定期		明治の中期、鹿児島県の踊り手を雇って演舞したのが始まりである。【2001】			錦町役場 0966-38-1111 〒868-0302 熊本県球磨郡 錦町大字一武1587	
6	球磨郡	錦町一武狩政	狩政・切原野臼太鼓踊り		錦町無形民俗文化財 昭和55年10月22日	不定期		狩政・切原野地区に雨乞いを目的とし、祭りや神社に奉納した。【2001】	【伝統芸能】 風流芸		錦町役場 0966-38-1111 〒868-0302 熊本県球磨郡 錦町大字一武1587	
7	球磨郡	錦町木上岩城	岩城臼太鼓踊り		錦町無形民俗文化財 昭和55年10月22日	不定期		町のふるさと祭りや祝い事、文化祭、敬老会の慰問で踊っている。【2001】	【伝統芸能】 風流芸		錦町役場 0966-38-1111 〒868-0302 熊本県球磨郡 錦町大字一武1587	
8	球磨郡	錦町木上迫	迫・野間臼太鼓踊り		錦町無形民俗文化財 昭和55年10月22日	9月～11月		神社、ふるさと祭りや学校・企業等の落成式で踊られている。【2001】	【伝統芸能】 風流芸		錦町役場 0966-38-1111 〒868-0302 熊本県球磨郡 錦町大字一武1587	

公益財団法人熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村データベース(球磨郡)

9	球磨郡	錦町西大王三条	大王三条棒踊り		錦町無形民俗文化財 平成元年2月10日	11月18日	西村神社	大王神社祭りに毎年奉納している。【2001】 唄1人、男(6尺棒)、女(3尺木刀)、楽は太鼓、鉦、三味線。【1991】		錦町役場 0966-38-1111 〒868-0302 熊本県球磨郡 錦町大字一武1587
10	球磨郡	(旧上村)あさぎり町塚ノ脇	虎踊り		上村無形民俗文化財 昭和47年5月1日	不定期		氏神を中心に伝えられてきた氏子の踊りである。【2001】		
11	球磨郡	(旧上村)あさぎり町柳別府	太鼓踊		上村無形民俗文化財 昭和47年5月1日			純然たる農民たちの伝承してきた踊り。氏神を中心に伝えられてきた氏子の踊りである。【2001】	【伝統芸能】 風流芸	
12	球磨郡	(旧上村)あさぎり町麓	上村白髪神社球磨神楽		上村無形民俗文化財 昭和53年11月2日	11月2日・3日		白髪神社大祭の他、郡市の神社大祭にも地域の小・中学生が奉納する。【2001】	【伝統芸能】 神楽	
13	球磨郡	(旧免田町)あさぎり町黒田	下免田の猿踊り		免田町無形民俗文化財 昭和50年3月31日	不定期		早魃のときの雨乞いや秋の収穫時の感謝の祭りとして踊られていた。【2001】		
14	球磨郡	(旧免田町)あさぎり町久鹿	久鹿の太鼓踊り		免田町無形民俗文化財 昭和49年3月26日	不定期		相良家の祝い事や、村々では祭日、縁日等、雨乞いにも行われたものという。【2001】	【伝統芸能】 風流芸	
15	球磨郡	(旧免田町)あさぎり町二子	九州相良古代踊り		免田町無形民俗文化財 昭和53年4月1日	不定期		相良家の祝い事や、村々では祭日、縁日等、雨乞いにも行われたものという。【2001】		
16	球磨郡	(旧免田町)あさぎり町黒田	下免田太鼓踊り		免田町無形民俗文化財 昭和59年1月24日	11月8日		相良家の祝い事や、村々では祭日、縁日等、雨乞いにも行われたものという。【2001】	【伝統芸能】 風流芸	
17	球磨郡	(旧免田町)あさぎり町永才	才園太鼓踊り		免田町無形民俗文化財 昭和63年3月28日	不定期		相良家の祝い事や、村々では祭日、縁日等、雨乞いにも行われたものという。【2001】	【伝統芸能】 風流芸	
18	球磨郡	多良木町多良木	球磨地方の臼太鼓踊り(中原)	くまちほうのうすだいいおどり(なかばる)	熊本県重要無形民俗文化財 昭和48年6月7日	不定期		人吉市紺屋町に伝わる太鼓踊りの師から習ったことから紺屋町踊り、源平合戦を模したと伝えられるところから源平踊り、雨乞いに踊られたことから雨乞い踊りともいわれ、中原地区の長男により継承されてきた。踊り組は、源氏方が臼太鼓5人、旗持1人、歌い手2人、平家方が道化(臼太鼓でカキともいう)5人、歌い手からなる総数18名が正式で、太鼓打ちは19～27才、鉦打ちは11～12才の男子である。演目は、(1)道太鼓、(2)勢揃い、(3)頭の踊り(出打、敵見、打下り、カセ、三段とび)、(4)脇の踊り、(5)関の踊り、(6)歌の陣、(7)廻り打ち、(8)追い廻し、(9)競合、(10)頭倒しから構成される。【熊本県ありのままHP2005】 勇壮で郷土の薫り高い他に見られない特異性を持った舞踊である。【2001】	【伝統芸能】 風流芸	
19	球磨郡	多良木町久米	球磨地方の臼太鼓踊り(青木)	くまちほうのうすだいいおどり(あおき)	熊本県重要無形民俗文化財 昭和48年6月7日	不定期		明治の初め、人吉市紺屋町住人の甚六が青木に移住した際に伝えたというが、詳細は不明である。踊りの組の構成は中原と同様。演目は、(1)道太鼓、(2)庭打ち(頭踊り、脇踊り、関踊り)、(3)廻り打ち、(4)唄の陣、(5)掉ゼキ、(6)上り討ち。【熊本県ありのままHP2005】 勇壮で郷土の薫り高い他に見られない特異性を持った舞踊である。【2001】	【伝統芸能】 風流芸	

公益財団法人熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村データベース(球磨郡)

20	球磨郡	多良木町久米	球磨地方の臼太鼓踊り(伏間田)	くまちほうのうす だいこ おどり(ふすま だ)	熊本県重要無 形民俗文化財 昭和48年6月 7日	不定期		源平の戦をかたどった踊りとされ、伏間田地区の男子によって伝承されてきたが、現在鉦打ちは女性が務めている。踊りの組の構成は中原と同様。演目は、(1)頭の踊り、(2)脇・関の踊り、(3)廻り打ち、(4)雷太鼓、(5)棒ぜき、(6)三段上り、(7)鉦打ち。【熊本県ありのままHP2005】 勇壮で郷土の薫り高い他に見られない特異性を持った舞踊である。【2001】	【伝統芸能】 風流芸			
21	球磨郡	多良木町黒肥地	栖山の太鼓踊り		多良木町無形 民俗文化財			球磨地方に分布する臼太鼓踊りのひとつ。【2001】	【伝統芸能】 風流芸			
22	球磨郡	多良木町多良木	葛沢の太鼓踊り		多良木町無形 民俗文化財 昭和46年5月 19日	不定期		踊りは、源平合戦を表現したものと伝えられ、勇壮で郷土の香り高い舞踊である。踊りの人数は、源氏方が頭の外、脇2人、関2人、鐘打ち5人、旗もち3人からなり、平家方が道化5人の計18人が正式である。【多良木町HP/2005】 勇壮で郷土の薫り高い他に見られない特異性を持った舞踊である。【2001】	【伝統芸能】 風流芸			
23	球磨郡	多良木町槻木	上槻木の太鼓踊り		多良木町無形 民俗文化財 昭和48年9月 21日	不定期		宮崎地方より移入し踊りはじめられたものと推測される。もともと念佛踊りであり、旧暦8月15日、十五夜行事として催されてきたが、山間地生活の無聊をなぐさめる一大レクリエーションとして定着し今日にいたっている。踊りの内容は極めて素朴である。【多良木町HP/2005】 もともと念佛踊りであり、旧暦8月15日に十五夜行事として催されていた。【2001】	【伝統芸能】 風流芸			
24	球磨郡	多良木町黒肥地	東光寺の太鼓踊り		多良木町無形 民俗文化財 昭和49年2月 26日	不定期		踊りは、源平合戦を表現したものと伝えられ、勇壮で郷土の香り高い舞踊である。踊りの人数は、源氏方が頭の外、脇2人、関2人、鐘打ち5人、旗もち3人からなり、平家方が道化5人の計18人が正式である。【多良木町HP/2005】 勇壮で郷土の薫り高い他に見られない特異性を持った舞踊である。【2001】	【伝統芸能】 風流芸			
25	球磨郡	多良木町黒肥地	大久保の棒踊り	おおくほのぼうお どり	多良木町無形 民俗文化財 昭和54年12 月17日	8月15日	大久保公民館 分館	由来⇒八代市高田の踊りが水上村宮田に伝わりさらに大久保に伝わったものだといい、最初は雨乞いのときに踊ったという。【1991】 雨乞いのために踊られていたようだが、その後、豊穡祈願、落成式などで踊られ【2001】 昭和54年12月17日町指定、所在地:多良木町大字黒肥地、元来、八代市高田の踊りであるが、水上村宮田を経て明治の初めに当地に移入されたもの。当時、雨乞いのため踊られたようであるが、その後は豊饒祈願、落成式等に踊り継がれて今日に至っている。踊り手は、会則により小学3年生以上中学生男子で構成。【多良木町HP/2005】			多良木町役場 0966-42-6111	

公益財団法人熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村データベース(球磨郡)

26	球磨郡	多良木町	多良木町の球磨拳		多良木町無形民俗文化財			江戸時代参勤交代の頃より始まったと伝えられている。球磨拳は即拳(ギリ拳)と散らし拳の二種類があるが、多良木町の場合、主として即拳を以って勝負にあてている。祭りや宴会にはかかせないおもしろい遊びである【多良木町HP/2005】 近世以来伝承されている酒席での遊技法。【2001】				
27	球磨郡	湯前町馬場	東方組太鼓踊り		湯前町無形民俗文化財 昭和44年8月1日	11月15日	里宮神社	湯前中学校生徒が披露。【2005.11.15.熊日】 平家の落人達が昔をしのび、また再興の念に燃えて踊ったのが、代々伝えられてきたものといい、県内では南部に広く分布しています。太鼓の胴には寛永年間の銘があるものがあり、歴史を物語っています。球磨地方に数多く残る臼太鼓踊りの中で最も勇壮な踊りです。【湯前町役場HP2006】 臼太鼓踊りの一つで「東下り」を称し、県南で最も勇壮活発なことで知られている。【2001】	【伝統芸能】 風流芸	球磨郡湯前町里宮神社 里宮神社社務所	湯前町役場 TEL0966-43-4111 FAX0966-43-3013 info@yunomae.com 868-0621 熊本県球磨郡湯前町1989-1	
28	球磨郡	湯前町浅鹿野	浅鹿野棒踊り		湯前町無形民俗文化財 昭和44年8月1日	11月15日	里宮神社	湯前中学校生徒が披露。【2005.11.15.熊日】 明治38年頃、多良木町前原より林田芳太郎氏が習い伝えたといわれています。県内では、球磨・芦北地方に広く認められ、鹿児島より伝来したものとされています。【湯前町役場HP2006】 多良木町前原から明治の末頃伝わってきた。【2001】		球磨郡湯前町里宮神社 里宮神社社務所	湯前町役場 TEL0966-43-4111 FAX0966-43-3013 info@yunomae.com 868-0621 熊本県球磨郡湯前町1989-1	
29	球磨郡	湯前町	球磨拳	くまけん	湯前町無形民俗文化財 昭和58年3月15日	不定期		球磨地方独特の娯楽で、酒宴でよく行われる。【2001】				
30	球磨郡	水上村岩野宮田	川内平家踊り		水上村無形民俗文化財 昭和48年10月11日	11月23日		平家踊りと言われ、球磨郡内約20近い太鼓踊りのなかで異なった踊りである。(意味不明瞭:他の踊りとは異なる、際だった個性を有する踊りであるの意か。)[2001]				
31	球磨郡	水上村岩野	上楠臼太鼓踊り		水上村無形民俗文化財 昭和48年10月	11月3日		雨乞い踊り、時には郡内の寺または、(道路の)開通にあたっては踊りも奉納していた。【2001】	【伝統芸能】 風流芸			
32	球磨郡	水上村江代千ヶ平	千ヶ平トラ踊り		水上村無形民俗文化財 昭和54年3月31日	不定期		大正初期頃、谷山亀治氏が古屋敷小学校の落成式にと虎踊りを千ヶ平住民に【2001】				
33	球磨郡	水上村江代平谷	白水神楽	しらみずかぐら	水上村無形民俗文化財 平成2年4月16日	9月23日	白水神社	小崎地区出身の服部氏が昭和年満40才の厄入りの記念として白水神社奉納【2001】	【伝統芸能】 神楽			
34	球磨郡	(旧須恵村)あさぎり町阿蘇	阿蘇虎踊り		須恵村無形民俗文化財 昭和58年4月1日			村内阿蘇地域に伝承される虎踊り。【2001】				
35	球磨郡	(旧須恵村)あさぎり町阿蘇	阿蘇槍踊り		須恵村無形民俗文化財 昭和58年4月1日			村内阿蘇地域に伝承される槍踊り。【2001】				
36	球磨郡	(旧須恵村)あさぎり町浜ノ上	浜ノ上臼太鼓踊り		須恵村無形民俗文化財 昭和58年4月1日			旧藩主相良公によって武道奨励と士気の鼓舞の目的で創始されたものである。【2001】	【伝統芸能】 風流芸			

公益財団法人熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村データベース(球磨郡)

37	球磨郡	(旧須恵村)あさぎり町中島	しよんなめじよ	しよんなめじよ	須恵村無形民俗文化財 昭和58年4月1日			五穀豊穡と、地主、大百姓の願いで農作業の人手がすこしでも多いことを祈るも【2001】					
38	球磨郡	(旧須恵村)あさぎり町上手	上手石坂棒踊り		須恵村無形民俗文化財 昭和58年4月1日			この棒踊りには二説が伝えられている。【2001】					
40	球磨郡	(旧深田村)あさぎり町庄屋	球磨地方の臼太鼓踊り(庄屋)	くまちほうのうすだい おどり(しょうや)	熊本県無形民俗文化財 平成11年11月29日	不定期		球磨地方を中心に広く分布する臼太鼓踊りの一つで、その由来は不明だが、源氏に敗れた平氏の残党が都を偲んで神に奉納したと伝えられている。庄屋の臼太鼓踊りには、「雨乞いの踊り」「道踊り」「本踊り」がある。特に「本踊り」は、深田阿蘇神社の秋の例祭に奉納されるもので、所要時間は2時間30分ほどになり、球磨地方に残された臼太鼓踊りの中でも良く形態を伝承している。【熊本県ありのままHP2005】 雨乞いや深田村の阿蘇神社の奉納踊りとして保護している。【2001】	【伝統芸能】 風流芸				
41	球磨郡	(旧深田村)あさぎり町東字植深田	植深田臼太鼓踊り		深田村無形民俗文化財 平成5年10月5日 あさぎり町指定無形民俗文化財 平成15年4月1日	不定期		平家の落人が昔を偲んで神の前で踊ったのが始まりとされ、当地区に古くから踊り伝えられてきたもので、昔は長男しか受け継ぐことができなかったが、現在、過疎化が進行し、地区民のできる人に踊りを継承している。神社の祭礼奉納、雨乞い、五穀豊穡、戦勝、その他各種の祈願祝賀行事等に踊られてきた。源平合戦を表現したものともいわれ、最初、各の太鼓と鉦打が一組になり演技する。これは武士の役目を表現しているといい、中途、仮想敵兵にみたてた仮鬼(かき)が来襲し互いに競合う。そして仮鬼を攻撃し追い上げて勝利し、引揚げるといった内容で、出陣、合戦、凱旋を表現した厳肅な儀式ともみることが出来る。太鼓は、大太鼓の頭(かしら)が1人、中太鼓の脇(わき)が2人、同じく中太鼓の関(せき)が2人いて、この頭・脇・関の3役に鉦打ちの少年が1人ずつ付く。仮鬼は3～5人、旗持1人で構成する。特徴としては、兜をかぶることや頭・脇・関の3つの役があることが挙げられる。太鼓3役の兜は、頭には巨大な牛の角、脇には鎌形、関には鹿の角をもった兜をかぶり、切れ長の衣装、手甲、脚絆にわらじがけという出で立ちで、鉦打ちは馬の毛をあしらった冠(しゃぐま)をかぶり、女物の衣装に白足袋に草履。仮鬼は古着に太鼓をつけユーモラスな動きで観衆の笑いを誘う。気迫がこもり芸の込んだ勇壮な踊りだが、太鼓や鉦の音には哀愁も漂い、見た観客は感激する。20分の演技。頭の出の踊りで巻きびやーと呼ばれる動作に特徴がある。《その他》平成2年3月11日第五回くま・ひとよし民謡と踊りの祭典出演(34年ぶり復活)。平成6年11月 立村百周年記念事業出演。平成9年11月 阿蘇神社例祭奉納。【あさぎり町HP/2006】 神社の祭礼奉納、雨乞い、五穀豊穡、戦勝など祈願祝賀行事に踊られてきた。【2001】	【伝統芸能】 風流芸	植深田臼太鼓踊り 保存会			

公益財団法人熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村データベース(球磨郡)

42	球磨郡	(旧深田村)あさぎり町荒茂	荒茂の獅子踊り		深田村無形民俗文化財 平成7年8月7日あさぎり町指定無形民俗文化財 平成15年4月1日	不定期		太鼓脇関2人、奇人脇関2人、獅子関2人、鈴2人の計8人で構成する踊りで、本舞の途中から歌が始まる。由来等については、確かな記録は残されておらず、昔から雨乞い踊りとして現在まで伝えられてきた。干天の時、地区の北の奥山間にある水神の小社の庭で太鼓を打ち廻って踊り雨を乞い、旧8月16日に至って、その願ぼときとして、この踊りを奉納する習わしとなっている。【あさぎり町HP/2006】昔から、雨乞い踊りとして伝えられており、現在は村の記念行事に出ている。【2001】		荒茂の獅子踊り保存会		
43	球磨郡	(旧深田村)あさぎり町東字庄屋	庄屋の槍踊り		深田村無形民俗文化財 平成7年8月7日あさぎり町指定無形民俗文化財 平成15年4月1日	不定期		この槍踊りは人数に制限なく、その装束は、頭に女性の鬘と女の着物を着け、手に房を付けた槍を持ち、拍子木をたたき歌に合わせて踊る。始め3列縦隊となって整列し、隊を変化させる勇壮な踊りである。踊りには1番から5番まであり、それぞれに歌詞がある。この踊りの由来は明らかでない。【あさぎり町役場HP/2006】踊りは1番から5番まであり、それぞれに歌詞がある。【2001】		庄屋の槍踊り保存会		
44	球磨郡	(旧深田村)あさぎり町西字草津山	草津山の棒踊り		深田村無形民俗文化財 平成7年8月7日あさぎり町指定無形民俗文化財 平成15年4月1日	不定期		この棒踊りの隊形は、一組六人の二組の場合では、4段3列で構成し、中央の列は鎌と太刀を持ち、その左右の列は棒を持って唄に合わせて踊る。踊り歌には、地現流、鎌倉流、三八流があり、唄の変わる毎に踊りの動作も変わる。由来については、中村本治氏の記録に、鹿児島県始良郡出身の田中喜左衛門が、明治十年の西南戦争に招集され、敗戦になった時、郷里に帰る事ができず、この草津山地区に数年逗留し、その際、始良郡の棒踊りを伝えたといわれる。また、鹿児島大学の下野敏見氏の解説では、地現流は田中氏が伝承した唄であり、踊りであるが、鎌倉流と三八流の場面は地元で付け加えた唄であり踊りであるといわれている。【あさぎり町役場HP/2006】鹿児島県始良郡出身の田中喜左衛門が、始良郡の棒踊りを伝えたといわれる。【2001】		草津山の棒踊り保存会		
45	球磨郡	相良村四浦大谷	大谷の太鼓踊り	おおたにのたいおどり	相良村無形民俗文化財 昭和62年1月21日	8月15日 10月19日	大谷地区公民館 初神社	四浦の大谷地区に古くから伝わる郷土芸能。球磨地方に伝わる臼太鼓踊りの1種で、地区の長男によって継承されており、四浦阿蘇神社大祭で奉納。【相良村HP/2005】四浦字大谷に古くから伝わる郷土芸能。四浦阿蘇神社大祭で奉納される。【2001】演目⇒臼太鼓踊り、小踊り。【1991】	【伝統芸能】 風流芸			
46	球磨郡	相良村川辺上川下	上川下獅子踊り		相良村無形民俗文化財 昭和62年1月21日	定期		川辺の上川下地区に伝わる郷土芸能。地区の長男によって伝承されてきた。発祥についてははっきりしていませんが、昭和58年に奈良文化財保護協会が鬼面を調査した結果、江戸時代前期(今から320年ほど前)頃のもものと鑑定されました。球磨地方における獅子踊りは、この地区が唯一のもです。【相良村HP/2005】江戸時代前期頃(約320年前)のもものと鑑定されている。【2001】				

公益財団法人熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村データベース(球磨郡)

47	球磨郡	相良村四浦初神	初神棒踊り		相良村無形民俗文化財 昭和62年1月21日	不定期		四浦の初神地区に伝わる郷土芸能。隣接する深田村の草津山に伝承されていたものが、江戸時代に初神地区に伝わったといわれる。踊りは6人1組が4～5組で、歌い手にあわせ棒を打ち鳴らして踊ります。 【相良村HP/2005】 四浦字初神に伝わる郷土芸能。深田村草津山から伝わったといわれる。【2001】				
48	球磨郡	相良村川辺永江	永江太鼓踊り		相良村無形民俗文化財 昭和62年1月21日	定期		川辺の永江地区に伝わる郷土芸能。既に江戸時代には雨宮神社で雨乞い祈願の踊りが奉納されています。雨宮神社は、雨乞いの神社として有名で、今でも参拝者が多い。【相良村HP/2005】 雨宮神社にて雨乞い祈願の踊りが奉納されている。【2001】	【伝統芸能】 風流芸			
49	球磨郡	山江村山田東浦	球磨地方の臼太鼓踊り(東浦)	くまちほうのうすだいこ おどり(ひがしうら)	熊本県無形民俗文化財			東浦地区の長男によって継承されてきた。臼太鼓6人(頭1、脇2、関2、小覚1)、鉦5人、カキ若干名によって構成される。演目は大きく(1)頭踊り(2)混踊りからなる。頭踊りは、(1)頭の入り、(2)各役付の入り、(3)歌路、(4)競合、(5)終演、(6)ひき、という次第で踊られ、続いて混踊りは頭が加わらず小覚が中心となり、(1)入場、(2)開演、(3)歌路、(4)終演、(5)退場、という内容。歌は頭踊り、混踊りの双方があり、混踊りには(1)忍越、(2)八つの谷、(3)山鹿殿の3種ある。 【熊本県ありのままHP2005】 球磨地方に広く分布している臼太鼓おどりのひとつ。【2001】	【伝統芸能】 風流芸			
50	球磨郡	山江村山田尾寄崎	尾寄崎棒踊り		山江村無形民俗文化財			球磨地方に広く分布している棒おどりのひとつ。 【2001】 《別称》二天流棒踊り《構成》木刀(三尺棒)2人と長刀(六尺棒)2人が1組になり、2組以上で踊る。 【1991】				
51	球磨郡	山江村万江丙大河内	大河内扇踊り		山江村無形民俗文化財			《特色》6人1組の踊り子が、囃子(鐘1人、太鼓1人、笛1人)に合わせて、頭に日の丸の扇を付けて踊る。江戸から伝わったと言われている。				
52	球磨郡	五木村梶原	梶原太鼓踊り			8月14日 8月15日	梶原白木神社	下谷・田口・梶原地区に伝わる太鼓踊りは、壇ノ浦の戦いに敗れた平家の一族が心の慰めにと華やかだった隆盛の頃をしのんで踊ったのが始まりといわれており、年月の流れと共に、祖先の弔い、雨乞い、豊年祈願のため踊るようになったといわれています。 【五木村HP/2005】 《演目》東の山、若君様、きよきぞめ、山鹿灯籠、鳴子舟、四節、吉野、むつの、初精霊、道楽。《特色》元は盆と八朔に踊ったという。お盆のときは7月7日から稽古を始めたという。初盆の家で踊る「初精霊」の曲は練習してはいけないとされている。また、この曲は親が死んだ場合と子供が死んだ場合は歌詞が違っている。	【伝統芸能】 風流芸			

公益財団法人熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村データベース(球磨郡)

60	球磨郡	(旧深田村)あさぎり町東下里	下里臼太鼓踊り		昭和60年5月1日 深田村指定無形民俗文化財 平成15年4月1日 あさぎり町指定無形民俗文化財	11月	深田村阿蘇神社	平家の落人が昔を偲んで神の前で踊ったのが始まりとされ、当地区に古くから踊り伝えられてきたもので、昔は長男しか受け継ぐことができなかったが、現在、過疎化が進行し、地区民のできる人に踊りを継承している。神社の祭礼奉納、雨乞い、五穀豊穡、戦勝、その他各種の祈願祝賀行事等に踊られてきた。源平合戦を表現したものともいわれ、最初、各の太鼓と鉦打が一組になり演技する。これは武士の役目を表現しているといい、中途、仮想敵兵にみたてた仮鬼(かき)が来襲し互いに競合う。そして仮鬼を攻撃し追い上げて勝利し、引揚げるといった内容で、出陣、合戦、凱旋を表現した厳肅な儀式ともみることができる。太鼓は、大太鼓の頭(かしら)が1人、中太鼓の脇(わき)が2人、同じく中太鼓の関(せき)が2人いて、この頭・脇・関の3役に鉦打ちの少年が1人づつ付く。仮鬼は3~5人、旗持1人で構成する。特徴としては、兜をかぶることや頭・脇・関の3つの役があることが挙げられる。太鼓3役の兜は、頭には巨大な牛の角、脇には鍬形、関には鹿の角をもった兜をかぶり、切れ長の衣装、手甲、脚絆にわらじがけという出で立ちで、鉦打ちは馬の毛をあしらった冠(しゃぐま)をかぶり、女物の衣装に白足袋に草履。仮鬼は古着に太鼓をつけユーモラスな動きで観衆の笑いを誘う。気迫がこもり芸の込んだ勇壮な踊りだが、太鼓や鉦の音には哀愁も漂い、見た観客は感激する。正式の演技時間は1時間40分要するが、最近では20分に短縮した演技で踊っている。【あさぎり町HP/2006】	【伝統芸能】 風流芸	下里臼太鼓踊り保存会		
64	球磨郡	五木村田口	田口太鼓踊り			11月第1土日	五木子守唄まつり	下谷・田口・梶原地区に伝わる太鼓踊りは、壇ノ浦の戦いに敗れた平家の一族が心の慰めにと華やかだった隆盛の頃をしので踊ったのが始まりといわれており、年月の流れと共に、祖先の弔い、雨乞い、豊年祈願のため踊るようになったといわれています。【五木村HP/2005】 《演目》東花壇、うぐいす、さんこやま、道楽。《構成》太鼓12、鉦3(もとは1)、唄1、旗持ち1。	【伝統芸能】 風流芸			
65	球磨郡	五木村下谷	下谷太鼓踊り			11月第1土日	五木子守唄まつり	下谷・田口・梶原地区に伝わる太鼓踊りは、壇ノ浦の戦いに敗れた平家の一族が心の慰めにと華やかだった隆盛の頃をしので踊ったのが始まりといわれており、年月の流れと共に、祖先の弔い、雨乞い、豊年祈願のため踊るようになったといわれています。【五木村HP/2005】 《演目》道楽、打ち込み、楽、入り、「むつの」前唄、「むつの」引き唄、引き。《構成》鉦1、太鼓16。《特色》昔は7月7日から練習を始め、お盆に踊ったという。	【伝統芸能】 風流芸			



公益財団法人熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村データベース(球磨郡)

66	球磨郡	五木村高野	高野棒踊り			11月 第1土 日	五木子守唄ま つり	高野・瀬目地区に伝わる棒踊りは、当時戦勝祝賀の催物として各地で踊られたものらしく、球磨郡では明治27年～28年の戦前戦後に初めて踊られたと言われています。【五木村HP/2005】 《演目》庭入り、ジゲンジ、サッサ、鎌倉、口説き、打ちわけ。《由来》坂より上(東陽村)の人から大正時代に習ったという。				
67	球磨郡	五木村瀬目	瀬目棒踊り	せめぼうおどり		旧6月15 日	瀬目八坂神社 五木子守唄ま つり	高野・瀬目地区に伝わる棒踊りは、当時戦勝祝賀の催物として各地で踊られたものらしく、球磨郡では明治27年～28年の戦前戦後に初めて踊られたと言われています。【五木村HP/2005】 《演目》入り、おせろ、かまくら、口説、梅の花、引き。《由来》260年ほど前に赤岩谷の銅山に来ていた鹿児島の工夫が伝えたといい。【1991】 ※現在は、高齢化に伴い活動休止			五木村教育委員会 0966-37-2211	
68	球磨郡	球磨村神瀬字 高沢	農婦			11月 3月	球磨中学校 一勝地第一小 学校	《特色》15～20人の踊り手が唄に合わせて種蒔きから収穫までの行程を演じるもので、昭和5～10年に高沢尋常小学校の先生が教えたものだという。【1991】				
69	球磨郡	球磨村神瀬字 高沢	高沢太鼓踊り			4月3日 11月	神瀬熊野座神 社 球磨中学校	《演目》臼太鼓、吉野、酒屋、京ノ町、佐土島。[中絶曲：萩原、千代女、しんきや]《構成》頭1人、関1人、脇1人、垣頭1人、垣尻1人、垣15人、鉦3人。【1991】	【伝統芸 能】 風流芸			
70	球磨郡	球磨村大瀬	大瀬太鼓踊り			11月11 日 11月	大瀬阿蘇神社 球磨中学校	《演目》市の峠、三段目[中絶曲：二段目、四節]《構成》頭1人、関2人、脇2人、垣頭1人、垣尻1人、垣10人、鉦4人。【1991】	【伝統芸 能】 風流芸			
71	球磨郡	球磨村一勝地 野々原、中屋、 中津、吐合、日 隠	中組太鼓踊り			11月9日 11月	一勝地阿蘇神 社 球磨中学校	《演目》臼太鼓、小臼太鼓、鎌臼、子遊び、臣、雨乞い踊り。[中絶曲：古鎌倉、新鎌倉、羅生門]《構成》頭1人、関2人、脇2人、垣頭1人、垣10人、鉦3人。【1991】	【伝統芸 能】 風流芸			
72	球磨郡	球磨村一勝地 字松舟、田代	庄本太鼓踊り			11月9日 11月	一勝地阿蘇神 社 球磨中学校	《演目》臼太鼓、小太鼓(テンダヤー)、富士の巻き狩り、兜、酒屋、矢筈、桜山、雨乞い踊り。《構成》頭1人、関2人、脇2人、垣頭1人、垣10人、鉦3人。【1991】	【伝統芸 能】 風流芸			
73	球磨郡	球磨村神瀬字 高沢	高沢棒踊り			11月	球磨中学校	《特色》芦北町宮の浦から伝わったものといい、6人1組で3人が六尺棒、鎌を持って踊る。【1991】				
74	球磨郡	球磨村神瀬字 川島	川島の棒踊り			10月 11月	川島分校 球磨中学校	《構成》6人1組で3～4組が六尺棒と鎌を持つ。唄2人。【1991】				
75	球磨郡	球磨村渡字岡	岡棒踊り			11月	球磨中学校	《特色》6人1組みで3組が六尺棒と鎌を持ち踊る。芦北町の湯浦から習ったという。【1991】				
76	球磨郡	球磨村一勝地 中渡、岳本、黒 白	岳本の棒踊り			11月9日 11月	一勝地阿蘇神 社 球磨中学校	《演目》棒踊り、ナギナタ踊り。《由来》鹿児島からきた桶屋が教えていったという。【1991】				

公益財団法人熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村データベース(球磨郡)

77	球磨郡	球磨村渡字小川	小川建築踊り			11月	球磨中学校	《特色》三味線、太鼓に合わせて10人～15人の踊り手が大工、左官道具を持って踊るもので、人吉市の西間町から習ったという。【1991】				
78	球磨郡	球磨村神瀬字住吉谷	ヤッコ					《演目》鞍馬下り、都入り、大江山、太田合戦。《特色》はじめに「呼び」が登場、物語のあらすじを唄った後、役者が登場して戦や出会いの場面を芝居仕立てで演じるもので、高沢、横井、多武除(球磨村)や、芦北の鎌瀬にもあったという。【1991】				
80	球磨郡	五木村	五木の子守唄					10月4日5日に五木の子守唄祭開催。初日は村に伝わる棒踊り、太鼓踊りの披露あり。【2006.10.25.熊日】			五木村総務課 0966-37-2211	
81	球磨郡	多良木町多良木	「大原女」行列	おおはらめぎょうれつ				10月20日、約40年ぶりに多良木高卒業生らが復活。かつて同校運動会の恒例行事だった。元女学生ら28人が同商店街を練り歩いた。大原女は、かすりの着物を着て、手ぬぐいを頭に被った姿。古くからの働く女性の格好を表すという。同校では1922年～43年の前身の多良木実科高等女学校時代から、3年生女子により行われていた。【2006.10.21.熊日】				